報　告

兵庫県立福祉のまちづくり研究所創設20周年記念式典・シンポジウム
－新たなる技術が切り拓く未来－

兵庫県立福祉のまちづくり研究所　　中村　俊哉

1. はじめに

兵庫県立福祉のまちづくり研究所の創設20年を記念し、去る平成25年11月9日、兵庫県公館にて創設20周年記念式典・シンポジウムが行われた。参加者数は234人と盛大なものとなった。

2. 第一部　20周年記念式典「福祉のまちづくり研究所の創設の思い～そして未来へ～」

兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所初代所長澤村誠志（現兵庫県立総合リハビリテーションセンター顧問）による講演。氏のこれまでの義肢への関わりから、福祉のまちづくり研究所設立の経緯、地域リハビリテーションとその中で求められる研究所のあり方について述べられた。

また、今後望まれる医療福祉分野の課題として、「誰もが、心豊かに、生き生きと、安心して、住み慣れた地域で、住み続けることができる『インクルーシブ社会』の形成」が重要であり、「当事者のニーズに基づいた福祉用具開発が期待される」と語った。

3. 第二部　シンポジウム「障害者、高齢者の機能・生活改善とロボット技術の融合に向けて」

3.1 基調講演「医療ナビゲーションシステムと生活支援ロボット技術の未来」

ミュンヘン工科大学ティム・ルーツによる講演。

ドイツでの医療機器の開発動向を中心に語られた。「重要なのはすべてをロボットに置き換えるのではなく、必要な箇所に必要な技術を使うこと」であり、「最終的な目的は患者の治療効果を有意に改善することである。」と述べた。

3.2 パネルディスカッション「ロボットリハビリテーションの今後の展開」

座長：陳隆明（兵庫県立リハビリテーション中央病院）
パネラー：入江満（大阪産業大学）、比留川博久（産業技術総合研究所）、辻敏夫（広島大学）、本田雄一郎（兵庫県立福祉のまちづくり研究所）

それぞれの立場から医工連携に対する期待と課題について語られ、「有効性の高い機器開発に向けた臨床との連携の必要性」と述べられた（図1）。

図1　シンポジウム

4. おわりに

これまでの歴史から期待される連携のあり方等の様々な面で示唆に富んだイベントであった。

本イベントの詳細な内容については、福祉のまちづくり研究所の機関紙「アシステック通信」第70号に特集が組まれており、ホームページで閲覧（PDF）できる。そちらもご一読いただきたい。

（敬称略）

兵庫県立福祉のまちづくり研究所
〒651-2181　兵庫県神戸市西区曙町1070

【参考URL】
兵庫県立福祉のまちづくり研究所ホームページ：
http://www.assistech.hwc.or.jp